

広島県CALS/ECC連絡協議会 第1回電子納品分科会 議事録

日時：平成16年2月4日（水） 14:00～16:30

場所：八丁堀シャンテ

1 広島県CALS/ECC連絡協議会規約について

当規約は先日開催された第1回連絡協議会において承認されており、この規約により電子納品分科会を開催することについて、事務局から報告。

2 議事録の公開について

各構成員の承諾により、電子納品分科会の議事録を公開することとした。

3 広島県の取組について（資料「広島県における取組」）

（受注業者関係）

- 国の方が先行している中で、今からやるのであれば、CADの仕様など今良いものを使用すればよいのではないかと考えている。

事務局：フォーマット・基準等を踏まえた上で最終形を見据えながら考えたい。

- 必要なソフトはある程度「これが良い」といった指導をしてもらいたい。

事務局：公共がどこまで決められるかは難しい面もあるが、今後考えていきたい。

- 小さい仕事も対象となるなら、必要なシステムはできるだけ簡単なシステムにしてもらいたい。電子化のハードルは低いものとしてもらいたい。

事務局：県によるシステム構築は無理だが、普及啓発・習熟促進策は考えたい。

- ITの導入により、現場主義に持っていくという念頭の元に実施してもらいたい。IT化ばかりに重視しないように。できるだけ処理が簡単になるように。

事務局：電子入札にはそういう感覚がある。それがCALSの本来の目的だと思うので、その辺りを疎かにしないようにしたい。

- 現在の地質調査成果は、国土交通省でも来年度の4月からとなっている。何をどのタイミングで実施するのかは検討した方がよい。

事務局：進め方については、今後検討する必要があると考えている。

（発注者関係）

- H16の試行対象の考え方。

事務局：県の各発注機関で数件程度を想定している。市町村はこのとおりに行う必要はない。

- 電子化の対象は、工事の大小・業者の大小により、求める内容を決めていけば良いのではないか。電子化を求める部分の展開計画についても、国交省はレベルの高いものを求めていると思うので、同様のレベルで県も即実施するのではなく、段階的に進めていくことが必要なのではないか。

事務局：段階的に拡大する展開計画を今後検討したい。16年度の試行については、協議会において説明後実施したいと考えている。

- 県要領を補完する手引き的なものを策定しないのであれば、できるだけ「協議」という言葉を使わないようにしないのが良いと思われる。

事務局：県要領は、担当者がこれを見れば大方の事が書いてあるものにしたい。

- いかに普及啓発を行っていくか、建技センターとしてもいろいろ考えており、いつかはお話をしたい。